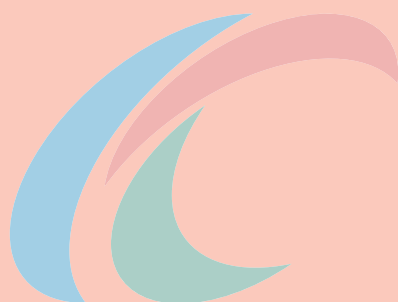


トピックス2

音楽療法の取り組み
給食における地産地消の取り組み



作業療法プログラム 音楽療法の取り組み

作業療法科では音楽を介してこころと身体を動かし、元気にするリハビリテーションの一つとして音楽療法を取り入れています。

患者には、病気により自分の気持ちを意識化・言語化できない状態や、「何をしてよいかわからない」と言った実感の無さ、体験の不全感、疲労により集中ができない方がいます。しかし、音楽療法の場面になると、演奏をうっとりと聴き、リラックスした表情や、珍しい楽器に興味を引かれたりします。また、音に合わせて楽器を鳴らし、嬉しそうに身体を動かし、恥ずかしそうな表情をする患者や、真剣な表情で指揮に合わせて楽器を鳴らし、自分が発した歌声に思わず吹き出してしまう患者もいます。全員で合奏をする場面では、言葉に表せない達成感を感じ、満足気な表情で大きな拍手をする様子が見られます。

生活の中での『音楽』とはどのようなものでしょうか。歌ったり、身体を動かしたり、演奏をすることで気分をリラックスさせたり、興奮させたり、楽しませたり、または自分を慰めたり、昔を思い出したり、他者と交流したりなど様々あります。『音楽』はこころと身体を動かし、日常生活に欠かすことのできない作業の一つなのです。音楽をきっかけとしてコミュニケーションの促進をはかり、喜びの日々を多く過ごせるようにと作業療法科ではプログラムを行っています。

作業療法科 棚橋 美里



音楽療法とは、「音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けて、意図的、計画的に活用して行われる治療的、教育的技法である」と定義されています。

給食における地産地消の取り組み

「地産地消」とは「地元で生産したものを地元で消費する」という意味で、「地産地消」は食料自給率の向上や健康的な食生活につながることで、さらに旬な食材・食文化への理解など、いろいろな役割を持っています。

新潟市では、生産者と消費者が直接交流するまちづくりとして地産地消や農業体験の取り組みを進めています。

当院も「地産地消」の取り組みとして地元で収穫された野菜や果物を病院給食に提供しています。7月には南浜地区で南浜スイカを出荷している地元農家より、スイカ畑の見学と南浜スイカの納品に協力して頂きました。スイカ畑は浜辺の近くにあり、砂浜のように風通しのよい環境でした。このように生産者と交流でき、どのような場所で作られているのかを知ることは食材の安心感につながります。そして患者に、より安心な食材を提供していると実感できました。

8月には病棟で育てたゴーヤを使用し、ゴーヤチャンプルを給食に提供しました。残念ながら260人前のゴーヤを収穫できませんでしたが、患者に旬な食べ物を、新鮮なうちに食べて頂くことや、食材を身近に感じてもらうことができたのではないかと考えています。

「地産地消」は大量生産が難しいといわれています。実際、地元農家に話を伺うと病院給食のように大量の食材が必要になると生産が大変であること、気候によって納品日までに生産できるか見通しがつかないことなど、課題を教えてくださいました。現在は農家の直売所を利用し、豊栄地区でしか生産されていない大きな「やきなす」や、南区産の鮮やかな「かきのもと」を地産地消メニューとして提供しています。どの地産地消メニューも好評で、患者、地域や地元の農家の方に少しでも貢献できるように地産地消メニューを今後も続けていきたいと思っています。

栄養科 吉川 萌



かきのもと



病棟で栽培しているゴーヤの収穫



ゴーヤチャンプル



南浜スイカ



やきなす